

中国・上海

Shanghai, China

モダン文化の粋が結集する街、上海の魅力

中国最大の都市、上海は観光の魅力に溢れている。とくに、アジアの中で、経済面だけでなく、文化面でも最先端の都市として注目を集めている。伝統芸術、現代芸術、スポーツ、食、ショッピングとあらゆる文化の粋が上海に集まる。上海はそうした現代的な部分と中国の歴史的な側面、さらには租界地としての西洋的な顔も併せ持つ。日々変貌する上海の最新観光スポットを紹介する。

日々変貌する上海、交通アクセス整備

2010年5月にオープンする上海万博に向けて交通インフラの整備が進められており、浦東国際空港は第2ターミナルビルや第3滑走路などの二期工事が完了し、正式に供用開始された。また、虹橋空港の拡大建設プロジェクトも2010年に開始する予定だ。また、航空路の拡充では、上海-北京シャトル便の試運転が開始されており、平均30分に1便が運航されている。

鉄道網の整備では、上海万博開幕までに、

上海全体で13本の地下鉄が開通予定で、その走行距離は400kmまで延伸する。また、上海から北京、南京、杭州への高速鉄道の建設も進んでいる。

さらに、上海は水上交通の発展も目覚ましく、世界の3大クルーズ会社が相次いで上海に寄港、今後3~5年のうちに、上海の国際クルーズ市場の潜在客数は毎年延べ50万人以上に達すると推定されている。

上海磁浮列車(リニア)で最速体感

浦東国際空港に降り立ち、直結するリニアモーターカー(上海磁浮列車)の上海浦東国際空港駅に向かう。空港駅から龍陽路駅まで約30kmをリニアモーターカーで時速431kmのスピードを体感する。片道50元、当日の航空券を提示すれば40元に割引。この価格で時速431kmのスピードが体感できるなら、一度は乗っておきたい。乗車時間は7分間と短い、新幹線よりも車両が安定していて、あまりに高速のためか、対抗のリニアとのすれ違いが一瞬で分からなかった。車内の席がゆったりとしていて実に快適だった。



世界一の展望階、上海環境金融中心

昨年8月にオープンしたのが、浦東地区にある上海環境金融中心(上海ワールド・フィナンシャル・センター/SWFC)で、新森ビル、上海ヒルズとも呼ばれ、今や上海のランドマークとなった。地上101階、高さ492m、展望階は97階と101階。世界一高いビルから上海を一望できる。101階の展望階の入場料は150元と安くはないが、それでも1日の入場者数は8000名にも達し、休日は中国国内外からの観光客が展望階に上がるために長蛇の列を作る。同ビルに入居するパークハイアット上海では、レストランや客室から素晴らしい景観を楽しむことができる。

浦東再開発の最後の建物となるのが上海タワーで、高さは632m。計画では2014年の完成予定。SWFCと道路を挟み、完成すれば、新名所がまた一つ増えることになる。

中国・上海のSOHO「田子房」

近年、人気のエリアが「田子房」だ。上海の町工場を改装し、1階にアートショップやカフェなどが立ち並ぶ。「上海のSOHO」とも呼ばれ、近年、若者を中心に人気を博している。田子房は後述するモダンな新天地と違い、ショップの2階はそのまま市民の住居となっており、1階はショップだが、2階は生活臭に溢れた「上海の裏町」の匂いがする。そこが魅力の一つで、欧米からの観光客も多いが、彼らを見ても、新天地にいる欧米人とはどこか違い、やはり「SOHO」の雰囲気漂っている。



租界地風な洒落たエリア「新天地」

「新天地」はスターバックス、PAULをはじめとする人気のショップ、カフェが立ち並び、東京と言えば代官山に似た上海で最も洒落たエリアだ。約3万平方mの敷地面積に100軒の店舗が建ち並ぶ。

上海の石レンガを使った1920、30年代の「石庫門」と呼ばれる西洋風な建築物を修復しており、フランス租界時代を思わせる。

さらに、ここには「中共一大会址記念館」がある。ここで1921年7月に、毛沢東などが出席して中国共産党の創立大会が開催された。新中国幕開けの地であり、中国史好きには堪らないところだ。



外灘から黄浦江対岸の浦東新区を見る

古き上海の繁栄、外灘の租界地

上海を流れる黄浦江の西岸、中山東一路沿いの外灘(英語名バンド)は、租界時代の上海の中心地。黄浦江を挟んで、中山東一路沿いの古き租界時代のビルが建ち並び、また対岸の浦東新区には上海ワールド・フィナンシャル・センター、東方明珠塔、金茂大廈など近代的なビルが建ち並ぶという好対照を成している。とくに、租界地区はゴシック様式、バロック様式などの旧銀行のビルが並び、往時の繁栄を偲ばせる。



不思議な感覚、バンド観光トンネル

1960年代に放映されたアメリカのSFテレビドラマ、「タイムトンネル」に入ったような錯覚に陥るのが「バンド観光トンネル」だ。外灘の南京東路と浦東の東方明珠塔の区間、全長647m。黄浦江の川底を自動無人運転の交通システムで走る。走行中にトンネル内は、原色の光線と音響で溢れる。乗車時間は5分。料金は20元。

農民画のふるさと、金山

上海から車で約30分、郊外に「金山」という地区がある。最近、観光素材として注目を集めているのが「金山農民画」だ。色彩感覚が豊かで、四季折々の豊年満作の明るい農村の風景や農民の日常風景が描かれている。色彩タッチは、一見すると山下清の画風を思い起こさせる。有名な画家によるものではなく、一般の人々により描かれており、農民画は金山の「金山農民書院」に作品が展示されている。



上海万博まであと1年、着々と整備



上海万博予定地となる黄浦江兩岸を一望できる盧浦大橋を訪れ、建設工事が進む万博会場を遠望した。上海万博が開幕する2010年5月まで1年、工事は急ピッチで進められている。

以前の上海観光では、黄浦江に架かる南浦大橋、楊浦大橋を渡ることも観光スポットの一つに数えられたが、上海万博の開催に向けて建設された盧浦大橋も観光名所となっている。展望台の高さは黄浦江の水面から110m、長さ22m、幅13m。展望台の上には、高速エレベーターを利用して橋の近くまで行き、そこからアーチ状の橋につくられた300段の階段を上り、橋の頂上まで行く。

かなりハードだが、上ってしまえば、そこは眼下に黄浦江、両サイドに上海万博の建設用地が広がる。右側にはシンボリックな「中国館」がはっきりと見える。

上海市観光局によると、2008年末時点で



上海全体には、4つ星、5つ星の高級ホテルの部屋数が10万室近くあり、ベッド数は13万台に達する。これに1つ星、2つ星、3つ星およびエコノミーホテルを加えると、計40万台のベッドが準備されている。また、周辺の蘇州や杭州嘉湖地区等には約10万室の客室数があるとしている。

上海万博は来年5月1日に開幕、10月31日までの184日間にわたり開催される。会場面積(観覧エリア)は328ヘクタールで、愛・地球博の森林部分を除いた面積の約4倍。現時点で186カ国・47機関の参加が決定しており、期間中の入場者は7000万人(1日当たり平均約40万人)を目標に掲げる。上海の至る所で、上海万博のスローガンとマスコット「海宝」(ハイバオ)を目にする。

「中国上海よりよい都市・よりよい生活」。上海万博の成功は、全上海市民の願いである。